

# 補論：期日前出口調査の効用

—2006年苫小牧市長選を事例に—

北海道新聞情報研究所  
僧都儀尚

有権者の投票行動は、短期間で大きく変化することがある。そのため、当落予測が覆ることがしばしば起きる。中央の情勢で事前にある程度大勢が決しているケースが多い国政選挙に比べ、そうした急激な変化が起きやすいのが地方都市の首長選であろう。

やや古いが、この好例が2006年苫小牧市長選である。ここでは北海道新聞社が初めて実施した期日前出口調査など各種調査結果を基に、約14万人の有権者の意識がどのように変化したのかを検証し、選挙戦のバロメーターとしての期日前出口調査の有効性を紹介する。

## 1. 市長選の概要

16年ぶりの選挙戦となった03年苫小牧市長選は、新人で自民党前市議の桜井忠が制した。その3年後、わいせつ容疑で桜井市長が逮捕。現職市長の逮捕、辞職という混乱の中、06年市長選は民主系で元市長の鳥越忠行と、自民党元衆議院議員の新人、岩倉博文との一騎打ちになり、結果は岩倉が序盤の劣勢を跳ね返し6000票差で勝利した。

■各種調査結果と得票率（各種調査の数値は生数字）

	岩倉	鳥越
情勢調査	37.3	53.1
期日前出口調査	48.9	50.9
投開票日出口調査	55.1	43.0
得票率	53.8	46.2

注）情勢調査の%比率は、回答者のうち、投票先を「決めている」とした投票に行きそうな人たち（Likely Voter）の中での比率。完全に投票者とは一致しないが、投票する可能性の高い人たちの投票意向であるため、投票者を対象とする出口調査の比率と比較することで投票動向のトレンドが読み取れると判断した。

## 2. 投票開票日1週間前の情勢

情勢調査は、地方都市の選挙では過去最大規模の800サンプルで行い、告示日直前の土・日曜日に実施した。手法はRDD法でなく、性・年代別構成比に準じて対象者を選定する「割り当て法」で行った。回答者全体の結果は、鳥越が42%と岩倉の35%を7ポイントリードしていたが、投開票日1週間前の時点で投票先を明確に「決めている」とした人に限定すると、鳥越は53%、岩倉は37%と両候補の差は16ポイントも開いていた。なお、ここで取り上げる情勢調査の数値は、投票先を「決めている」とした人の比率である（上記注釈参照）。

情勢調査の信頼度はどうだったのか。調査で「前回選で誰に投票したか」を聞くと、通常、回答結果は実際の結果と大きくかけ離れてしまう。有権者心理から、負けた候補名を

言いづらく、どうしても勝った候補の割合が高くなってしまい、それが全体の回答に影響を与える場合もある。しかし、今回は前市長が逮捕されたので、回答を偽る人が少なかったのか、調査結果と実際の得票率はピッタリと一致した。つまり、対象者は正直に回答していることが伺え、調査結果は投票開票日 1 週間前の情勢をある程度正確に反映していたのではないかと推察される。

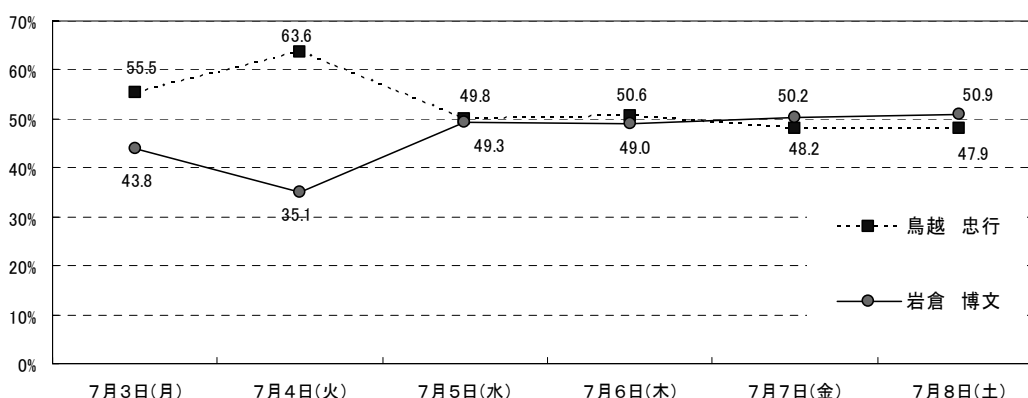
### 3. 告示日から投票日までの情勢

#### ① 投開票日前日までの情勢

告示日から投票日前日までの 6 日間にわたって実施した期日前調査から、両者の差が日を追うごとに縮小し、形勢逆転を予想することが伺えた。

調査では全期日前投票者 8,412 人の 18% に当たる 1,551 サンプルを回収。期日前投票は市内 3 カ所で行われたが、そのうち全投票者の 7 割を占めた市役所で行った。序盤こそ鳥越が大きくリードしたが、中盤で岩倉が追いつき、終盤では僅差ながら逆転に成功した。最終結果（累計）は鳥越が 51%、岩倉が 49% と鳥越が若干上回ったが、勢いでは岩倉に分があった。

■ 日別の投票結果（期日前）（数値は生数字）



期日前投票者に占める無党派層の割合は 2 割で、組織票が 8 割を占めた。両候補とも支持母体を手堅くまとめ、無党派層では鳥越がリードしていた。いずれにしても、期日前投票で鳥越が岩倉を上回った票を換算すると、わずかに 250 票あまり（推定値）。投票日前日は両候補が横一線で並び、勝敗を分けたのは投票日だったと考えられる。

#### ② 投開票日の情勢

期日前調査の結果を見ながら、急きょ投開票日に出口調査を実施し、704 サンプルを回収した。結果は 50 代以下と無党派層で大きくリードした岩倉が鳥越に 7 ポイント差の 55% となり、実際の得票率 54% とほぼ同率だった。

#### 4. 変化の要因を探る

##### ①性別 男性で鳥越失速

では岩倉勝利の要因はどこにあったのか。性・年代別と支持政党別の投票行動を3つの調査結果を時系列で分析してみる。

性別で見ると、岩倉は男女ともに投票日にかけて支持を順調に伸ばすが、鳥越は伸び悩んでおり、特に男性で著しい。

■性別における投票行動の推移（各種調査の数値は生数字）

	男性		女性	
	岩倉	鳥越	岩倉	鳥越
情勢調査	35.2	56.2	39.4	50.0
期日前出口調査	48.2	50.4	47.9	51.3
投開票日出口調査	54.1	44.2	56.4	41.6

##### ②年代別 50代以下が岩倉支持鮮明に

年代別で見ると、60代、70歳以上の高年齢層と50代以下では傾向が異なる。高年齢層では、鳥越がリードもしくは互角の戦いを演じているなど比較的小幅な動きを示す。しかし、50代以下では岩倉の支持が急増し、逆に30～40代では鳥越の支持が急減するなど振幅が大きい。鳥越の数値に着目すると、20代、30代と50代の投票行動は期日前と投開票日で真逆な傾向を示し、投開票日の鳥越の支持は期日前に比べ15ポイントも減少している。

■年代別における投票行動の推移（各種調査の数値は生数字）

	20代		30代		40代	
	岩倉	鳥越	岩倉	鳥越	岩倉	鳥越
情勢調査	33.3	50.0	30.8	66.7	31.8	61.4
期日前出口調査	42.9	55.0	46.6	52.3	51.9	46.4
投開票日出口調査	60.0	40.0	59.4	37.7	58.4	38.6
	50代		60代		70歳以上	
	岩倉	鳥越	岩倉	鳥越	岩倉	鳥越
情勢調査	48.7	37.2	36.8	58.8	33.3	54.0
期日前出口調査	47.9	51.5	48.8	50.5	51.2	48.2
投開票日出口調査	63.2	36.3	48.9	48.9	44.2	53.2

##### ③支持政党別 対照的な基礎票と無党派票の動き

支持政党別を見ると、岩倉は自民党支持層の引き締め成功したが、鳥越は支持基盤の民主党支持層を固め切れず、最終的には3割の離反票を生んだ。また、無党派層でも両候補は対照的で、岩倉は投票日にかけて順調に上昇カーブを描き投開票日に突き放したが、鳥越は期日前投票までのリードを保てず、最終日に失速した。

公明党支持層の影響力はどうだったのか。本誌の中で詳しく紹介しているが、公明票の出方は国政選挙や統一地方選など自党に直接メリットがある選挙と、今回のように首長単独選挙などメリットがない選挙では、明らかに動きが異なる。後者の場合、たとえ党推薦候補であろうが、よほどのことがない限り動きが鈍く、選挙戦のキャスティングボードを握ることはまずない。

■支持政党別における投票行動の推移（各種調査の数値は生数字）

	自民党支持層		民主党支持層		無党派層	
	岩倉	鳥越	岩倉	鳥越	岩倉	鳥越
情勢調査	72.9	18.8	10.6	82.3	39.5	48.1
期日前出口調査	79.4	22.0	19.1	80.1	46.3	52.0
投開票日出口調査	81.1	18.1	29.5	69.5	57.0	39.8

## 5. データ分析のまとめ

今回の情勢変化の根底には何があったのか。それは「多選批判」と思われる。元市長の鳥越は4期16年間、無投票で当選し続けた。そのため、市政刷新を求めた50代以下と無党派層、そして一部の民主党支持層が岩倉へ投票したと推察できる。

一方、60代以上は桜井市長の逮捕を受けて、変化よりも安定度を重視した結果、行政経験豊富な鳥越へ投票したと考えられる。選挙前はこうした保守的姿勢が市民全体に浸透していたことが、情勢調査の結果に反映したと考えられる。

## 6. 期日前出口調査の効用

上述した推論のように、選挙結果の裏側にある民意を推し量るには、客観的な調査データが欠かせない。以前は情勢調査と投開票日出口調査の二本立てだったが、期日前出口調査を組み込むことで、より多角的な時系列分析が可能になる。

期日前出口調査は、選挙期間中の世論の動向を敏感に察知することができる。過去の経験から、国政選挙では情勢が急激に変化することはほとんどなかったが、風向きが変わりやすい地方選挙では効果を発揮しやすい。今回の事例のように、予想外の接戦ともなれば、投開票日出口調査を急ぎよ実施するなど新たな調査体制を築くこともできる。

また、候補者の「勢い」をつかめるので、結末を予想しやすいことも大きなメリットである。国政選挙の期日前投票では公明バイアスが存在しているが、それを差し引いて考えると事前に勝敗が見えてくる。

北海道新聞ではこれまでに大小の選挙を合わせて10回以上、期日前出口調査を実施しているが、その重要度は回を増すごとに高まっている。指定都市以外だと、投票期間は6日間と短期で投票所も少なく、費用も比較的にかからない。機会があれば一度、実施してみることをお勧めする。